令和２年度　学校評価分析

児童

評価値	評価項目	成果・課題
１．６	友達と仲良く遊んだり勉強をしたりしている。	個人的ないさかいはあっても、素直でやさしく友達思いの子が多い。 反面、積極性や冒険心に欠ける子も少なくないように感じる。放課の外遊び制限があったが、昨年度と同じ評価値で済んだ。
１．５	私は生き物や自然を大切にしている。	０．４上昇。大東水族館を設置したことの効果が大きい。質問コーナーでは１００名近い子が質問カードを書いて返事を楽しみにしている。 校内での作物栽培も積極的に行われ、調理実習ができない分は家庭に持ち帰らせた。
１．４	私は人のことを思いやることができる。	平成３０年度より年々評価値が上がってきている。定期的な教育相談や保健室での教職員の素早く共感的な対応の成果が表れている。 人権週間には、昇降口前の思いやりの木に多くのカード（花）が貼られ、満開になった桜の花を立ち止まって見ている児童が目立った。
０．７	正しい姿勢で生活している。	低い評価値で残念である。今年は感染予防に全力をあげているため、チェックが甘くなっていた。なお、感染症対策は厳しくやっているとの声が職員・保護者評価に表れている。
１．０	私は友達や先生、地域の人に笑顔であいさつができている。	コロナ禍で大声を出さずマスク着用、コミュニティあいさつ運動も中止と続いたこともあるが、元気があいさつができない児童が目立った。中には相手を見ない児童もいて、次年度に向けて手立てを考える必要がある。
昨年比	昨年比で上昇率が大きかった項目は、「生き物や自然を大切にする心＋0.4」「友だちの発表を聞いて自分を向上させる心＋0.3」であった。コロナ禍の中の生活改変で、多くの低下も予想されたが、児童なりに自分を納得させて今の生活を送っていると思われる。 下降率が大きかった項目は、「将来の夢をもつ心―0.3」「きらきらチャレンジウイークー0.2」であった。今の状況から当然のことと思われる。次年度以降、未来への希望をどうもたせていくか、まずは教師・家庭が希望をもてることができなければ、薄っぺらな指導になってしまう。大人側の真価が問われる。	

保護者

評価値	評価項目	成果・課題
１．５	子どもに思いやりの心が育っている。	学校教育に限らず家庭教育もしっかりできていると考えられる。保護者としては、コロナ感染の不安は当然大きいが、そんな環境下でも子どもが成長をしていることを実感できているのではないか。
１．５	同級生や近所の友達と協力できる。	全体として見ると落ち着いて仲のよい生活が送れている。学年が上がるに従ってぶつかり合うことは当然起こっており、それを乗り越えて成長していってほしい。
１．３	親や兄弟姉妹の話に耳を傾けることができる。	昨年より 0.4 評価値が上がった。在宅時間や自宅待機が増え、家族が顔を合わせることが増えている。ストレスもあろうが、状況を受け止めけんかをしないように過ごしていたのだろうか。逆に、家族で活動や出かけるキラキラチャレンジは減っている。
０．１	よい姿勢で生活している。	全項目の中で最も低い結果であり、児童・教職員も同様の評価になっている。学校での姿勢だけでなく、家庭での子どもたちの様子が目に浮かぶ。コロナ禍を考えて、ディスタンスをとり消毒も含めた基本的所作をさらに意識させていきたい。
０．６	地域の大人に笑顔であいさつできている。	児童・保護者・教職員全てができていないと評価している。通学団の地域委員、あいさつ当番、交通指導員等登下校時に世話になっており、顔もわかっているはずだができない。しかも、どの学年でも同じ課題となっている。 あいさつのよさをどう感じさせるか、手立ての見直しをして次年度の最重要課題にしていきたい。
昨年比	上昇率が上がったのは「親や兄弟の話に耳を傾ける＋0.4」「生物や自然を大切にする＋0.8」であった。家庭での落ちついた生活が進んでいること、校内の生物・自然環境の整備などが原因の一つであろう。 低下したのは「キラキラチャレンジウイーク 0.3」「将来の夢がある 0.2」である。将来の夢がもてる世の中であってほしいし、夢に向かって努力できるようにキャリア教育を系統的に進めていく必要がある。	

教職員

評価値	評価項目	成果・課題
１．８	児童を認め、ほめ、叱り、励まし、伸ばす教師であろうとしている。	全員が肯定側になっており、児童を指導する基本姿勢を共通理解できている。この姿勢が児童や保護者に正しく伝わるよう、より具体的な方法へと改善が必要である。
１．８	相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成に努めている。	互いの思いを伝え合える個人・集団を作っていくことが、学級経営の根幹である。児童や保護者の評価値も高くなっており、個々を尊重しつつ集団で力を合わせる必要性を理解できている児童をさらに増やしていきたい。
１．８	児童とともにある教師であり続けようと努めている。	児童の相談や問題行動に迅速な対話と対応をしている姿が見られる。その際、児童の目線に降りて、一緒に活動する姿から児童の信頼感が育っているに違いない。 笑顔が一番を常に意識し、やさしく・厳しく・頼りにされる教師を意識していきたい。
０．６	教職員の多忙化解消は進んできている。	昨年比で評価値－0.1となった。年度初めの状況や夏休みの短縮で職員の疲労は心身共に限界であった。学校行事も中止になり、運動会が唯一の実施であった。また、消毒作業や健康チェックも加わり、ゴールが見えない生活がこの先も続き不安である。 学校として更に多忙化解消は進めるが、教育委員会行事を無くしていくなどの改革をしなければ、苦しいのではないだろうか。
１．１	主体的・対話的で深い学びを促す授業の実践	会話やグループ学習の制限が大きく、目指す授業実施は無理である。その中で、職員は工夫を繰り返し、何とか軌道に乗ってきたところで再度の緊急事態宣言。痛恨である。一日も早い事態収拾を望むしかない。
昨年比	評価値が上がったものは２項目だが、正常な学校運営ができないため５項目で下がった。毎年、児童・保護者に比較して教職員の自己評価値は甘めになるが、現状を考えそれぞれがしっかり評価したとも言える。次年度以降も、しっかりとコロナと向かい合っていくためには、教職員の心身の健康維持が最大の目標となる。	